

公立中高一貫校
レポート #10

千代田区立 九段中等教育学校 [東京都千代田区]

かつて旧制一高に多くの卒業生を送り込んだ伝統の進学校が、日本初の区立一貫校として甦った。「至大至剛」の精神で、目指すは大学のさらにその先…

皇居も至近な都心のド真ん中という地の利を活かし、行政や一流企業も協力するキャリア教育が旗頭。国際教育も伝統文化学習もその中に取り込まれている。一方で、夏休みに4泊5日で遠泳する「至大荘行事」が風物詩という、新旧が巧みに入り交じる様はさすがだ。

取材・文／鈴木隆祐 写真／松沢雅彦
デザイン／タケウチフミヒロ (landfish)

千代田区立九段中等教育学校（以下、九段）は、旧制第一東京市立中学校を起源とする、都立九段高等学校が前身。東京23区立初にして唯一の中

高一貫校で、高校課程の教育施設としても唯一の「区立」だ。校舎は2つに分かれ、1～4年生がいる九段校舎が九段北二丁目、5～6年生がいる富士見校舎が富士見一丁目にある。九段校舎がメインで、所在地表記もこちらだ。

東京理科大富士見キャンパス、暁星や白百合学園などに囲まれ、靖国神社も真隣。都心の一等地ながら、非常に閑静な一帯にある。皇居もごく近い。学習環境としては、申し分ない。事実、立地のよさを第一志望に上げる受検生も多いという。

前身の第一東京市立中は関東大震災による学



基本データ

沿革
1924年：第一東京市立中学校として母体校設立。
1943年：都制が施行され、東京都立九段中学校に。
1948年：学制改革により、東京都立九段高等学校となる。
1967年：学校群制度実施。日比谷高校・三田高校と11群を組む。
2006年：千代田区立九段中等教育学校が開校（09年に母体校は閉校）。

校長 牧野敦
所在地 所在地 東京都千代田区九段北 2-2-1
交通 東京メトロ東西線・半蔵門線 / 都営新宿線九段下駅から徒歩3分、JR 総武線 / 東京メトロ東西線・有楽町線・南北線 / 都営大江戸線飯田橋駅から徒歩10分
出身著名人 (市立一中・九段中) 家永三郎、糸川英夫、安岡章太郎、鈴木健二、名古屋章、(九段高) 横路孝弘、なかにし礼、松岡正剛、いみちもまたか、有賀さつき…etc.



ウガンダ出身のクリアさんは飄々と、文章作成ゲームをリードする。彼女が語りかけるたび、教室に爆笑の渦が起こる。最近クリアさんのような、ウガンダからの留学生は多いとか

生徒と見まがう、小柄で可憐なトランさんはベトナム出身。クラスを2分しての、連想ゲームのお題は「アーティスト」だ



浴びるのではなく、自らほとばしり出る英語

2019年度 志願状況

定員数	受検者数	倍率
区分A (千代田区内) 男子40名、女子40名	A:170名 (男子87名/女子83名)	A:男子 2.18 女子 2.08
区分B (千代田区外) 男子40名、女子40名	B:511名 (男子212名/女子299名)	B:男子 5.30 女子 7.48

千代田区内、また区外都内居住者から同数を募集するが、後者の倍率は高く、ことに女子にとってはかなり狭き門。

校不足を背景に、1924年に創設された。東京市は東京府（現東京都）東部に1889年から1943年まで存在しており、最終的な市域は現在の東京都区部（東京23区）に相当。つまり第一市中は23区立の旧制中だった。他の東京市立中としては、第二＝現都立上野高校、第三＝都立文京高校、第一東京市立高女＝現都立深川高校などがある。戦前の九段は上野とともに、旧制一高への進学が多いエリート校で、戦後の新制高校となってからも、学校群制度制定以前は、2桁の東大合格者を誇っていた。

そもそも、初代校長の成田千里は「知徳体三位一体」の新教育を掲げ、今も残る臨海施設「至大荘」での遠泳に代表される、質実剛健な校風を育んだ。制服も府立五中（現小石川中等）などとともに、当時としては画期的な背広で、国立栄養研究所の指導下、学校給食が出された時期があったのも、いかにも大正デモクラシーの時世を反映している。

温故知新の令和流新教育

そうした進取の姿勢は、区立となり中等教育学校となっても、今なお九段には貫かれて

牧野敦校長は九段の後期課程副校長から、やはり伝統校の北園高校校長を務め、都教育庁中部学校経営支援センター支所長を経て、今年から古巣に返り咲いた





スワンサー教諭のは始業前の同校名物、イングリッシュシャワーの指導もする。1年の授業でも、ゲームを楽しませながら、難しい語彙を自ら見出ださせていた

いる。前期課程の生徒が対象の、「おはようスタディ」などがそうだ。そこでは外国人留学生との「イングリッシュシャワー」と朝読書が週替わりで実施されるのだが、始業前の朝学習として極めて効果的に成り立っている。

というのも、イングリッシュシャワーのティーチングスタッフは英語圏出身者に限らない。むしろ、非英語圏からの留学生たちが主で、多くは東大の大学院生だという。それが現代の英語の実情を反映していよう。同校英語科のブレント・スワンサー教諭によると、スタッフの顔ぶれは「ウガンダ、スリランカ、インド、ベトナム、イスラエル、ロシア人…ほとんどネイティブはいない」ということになる。

「私もここで初めて会う国の人たちもいる。みんな訛っています（笑）。でも、それが今の国際社会。日本もそうでしょう。いろんな外国人が英語を使って、コミュニケーションを取る。イングリッシュシャワーでは、英語力というよりグローバル・マインドを育てたい」

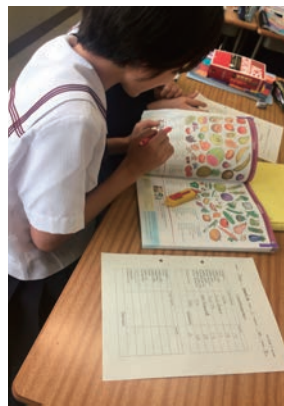
スワンサー教諭の存在自体がインターナショナルだ。ブレント先生と上の名で生徒らに呼ばれ

る、教諭自身はアメリカ出身。カリフォルニア大学リバーサイド校で日本語を学び、日本に住んでみたくなり、23年前に来日した。帰国して日米関係に通じたライターになるつもりが、英会話学校で教えるうちに教師が楽しくなり、あっという間に12年が経った。そこで1年間のアシスタントを経て、文科省の特別免許状を取得、九段に正規教員として採用された。

「趣味はボディビルディング。小学生の頃からテコンドーもやっていて、九段で創部し、顧問もしています。子どもの頃はあまりスポーツが好きじゃなかった。両親に勧められ、近所で韓国人の先生が道場を開いていたんで通うようになったけど、なぜか韓国語は習おうと思わなかった（笑）」

3年生のあるクラスでは、ウガンダ人のクレアさん

プリントには副読本に載っていない、ディズニーキャラのような遊びの部分も。誰もが考えつかない、意外性のあるキャラをバツと思いついては、欄内に書き込む女生徒



学び合いの姿勢が如実に光るディベート



小美野主幹教諭による6年の政経でのディベートは、吟味された方針の上、入念な準備もなされ、かなりクオリティの高い内容となっていた

がレッスン中。前期生は主にゲームやチャンツ（韻を踏んだ歌）を楽しみ、英語に親しませる。そして、各スタッフが自国の文化について教えたりもする。クレアさんは生徒をランダムに指名し、単語を言わせて簡単な文章を作るよう促す。

例えば、最初の生徒が“ I ”と始めたら次の生徒が“ was ”、その次が“ born ”となれば、お次ぎは“ to ”、であれば次は“ love ”、そして5人目が“ you ”で締める。というように、言葉の数珠つなぎをするうち、生徒のやる気も繋がっていく。

お隣のクラスではベトナム人のトランさんが、まず2人の生徒を黒板の前に立たせる。そして、おもむろに“ Artist ”と書く。そして、2手に別れた生徒たちが英語でヒントを出し合い、前にいる生徒に当てさせるといふ、いわば「連想ゲーム」を取り仕切っていた。お気に入りのミュージシャンの名前を上げる生徒もいれば、英英辞典よろしく言葉の解説を英語でする生徒も。狙い通り英語がシャワーのように飛び出てくる。

これぞ現代の「新教育」と言えそうだ。言わずもがな、脳トレになり、授業も効率よく進められる。後期課程でも始業前、「朝学習」として自習時間を設けるが、週に一度はイングリッシュシャワーも継続。一方、補習に当たる「放課後スタディ」も九段特有のシステムだ。生徒全員が自習室を利用できる環境が整えられており、近くの現役大学生のサポートも受けられる。



休み時間にも、先ほどまでの授業内容を幾人かで確認し合う姿が多く見られた。それも実に楽しげだったのが印象に残る。校長の唱える、“学び合い”は確かに定着しているようだ

5年生の体育で男子はバスケットボールに興じていた。稲城市にも体育施設「尽性園」があり、サッカー場や野球場、テニスコートなどを擁し、週末や長期休暇に部活動で利用されている



靖国の社の傍らで伝統と革新が融合

九段の教育理念は「豊かな心 知の創造」。牧野敦校長は「人作りに重点を置いている学校」だとも語る。牧野校長は本年度九段に着任したばかりだが、以前は副校長を務め、今の学校作りに心血を注いだ。

「それからしばらく経ちましたし、ちゃんと生徒の目線に寄り添っているか、確認していかなくはなりません。不確実で先の予想がつかない時代。未知のものへの対応力が問われる。だが、一人では限界がある。だから、互いに協力し合っていく。そこで確かな学力に基づいた知力を身に付け、新発見や発明のできる子が育てば、ありがたいことです」

牧野校長も「九段の代名詞」として、「至大荘行事」を挙げる。これは毎年7月末から8月頭にかけて、4年生全員が参加し、4泊5日で千葉県勝浦市の至大荘に向かい、4日目の午前と午後



4年生物基礎ではブロッコリーを使っの、DNA抽出の実験が行われていた。抽出液は食塩と同量の洗剤を水に溶かして作る。濾過した抽出液にエタノールを注ぐと、あーら不思議…白い糸状のDNAが浮き上がってくる

り広げられる遠泳のため、最初の3日は游泳やランニングで訓練をする、実にパワフルな行事だ。教職員のほか、卒業生40人が游泳助手、保健助手として行事を支援する。

「ああいう精神性、連帯感はこの世の中ではなかなか得られない」と校長。至大荘は「至大至剛」という、『孟子（公孫丑上）』に出てくる言葉から取った名だ。この上なく大きく、この上なく強い。

「浩然之氣」を評した語だ。校長も「本校は先進的な教育活動を展開するその一方で、普遍的精神ともいえる『至大至剛』を希求していく」と学校サイトの挨拶でも強調。まさに「伝統と革新の融合」が九段なのだ。

言葉遊びにも知恵を使いながら

さて、九段の授業を見ていきたい。スワンサー教諭の1年英語は、イングリッシュシャワーのゲーム性を取り込みながら、より考えさせる内容になっていた。それは“Scattergories”というボードゲームに由来する。プリントに果物や野菜、学校での科目、1人でするスポーツ、ディズニーの



当日はまだ準備段階のディベート。書記役がPCで調べながら班ごとに話し合う。自ら調べ仲間と語らううち、議題についての考えが変わりもする

キャラクターといったカテゴリーがあり、生徒は各人任意に書き込んでいくのだが、それが対戦相手（他の班員）と重ならないよう注意する。まるで相手とダブらなければ10点一となり、枠内に月並な言葉を入れないことが勝利の秘訣だ。満点を取った班の女子生徒は、プレイの仕方自体も合理的に考えた。

「言葉を選ぶのに時間がかかるから、上半分は女子、下半分は男子にして、最後に話し合って決めました。ディズニーキャラは『ライオン・キング』のナラにしましたが、主人公のシンバは誰でも知っていると思い、避けました」

ここにも校長の言う、「互いに協力し合っていく」



1年国語では詩人吉野弘の代表作『奈々子に』に取り組む。鈴木真己教諭は「抽象度の高い表現」に自身で描いた絵を添えることで、生徒なりの理解を促す。彼らはその解釈も共有し合う

精神が覗く。考えてみれば、ポキャブラリーも環境次第で変わってくる。語彙力をつける努力を煽る書籍の出版が後を絶たないが、まず自身が活字を読み、そこで得た言葉で語らう、やはり活字をよく読む親や友人に囲まれてさえいれば、自ずと言葉は血肉化されるはずだ。その語彙を深い次元で用いるためには、ぜひ詩歌にも触れるべきだろう。

そこで1年国語の授業を見ると、小学校の教科書にも掲載されている、吉野弘の詩『奈々子に』をプリントで扱っていた。これは吉野が生まれたての長女に向かい、問いかけるように書いた詩だ。

「唐突だが／奈々子／お父さんは お前に 多くを期待しないだろう」という二節目がいささか衝撃的な、この詩は平易だが、実に深い。なぜ我が子に「期待しない」のかといえば、「ひとが／ほかからの期待に応えようとして／どんなに／自分を駄目にしてしまうか／お父さんは はっきり／知ってしまったから。」だ。

そして、父はさらに語りかける。「お父さんが／お前にあげたいものは／健康と／自分を愛する心だ」と。

初めて子を持った父は痛感している。「自分を愛することをやめるとき／ひとは／他人を愛することをやめ／世界を見失ってしまう」と。

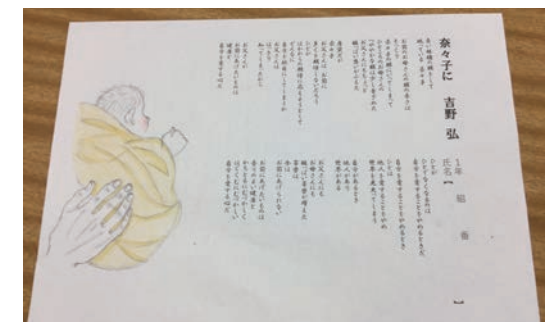
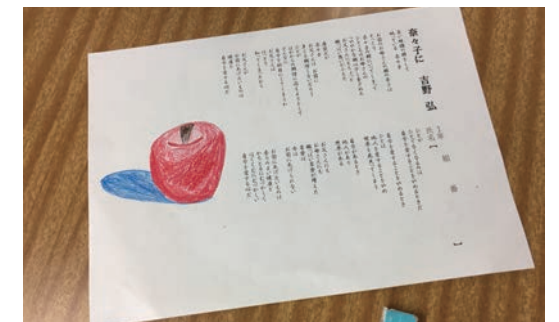
授業ではこの詩をパッと読んで、何をイメージ

多様な進路が独自の教育方針を示す

大学合格実績(過去3年間 過年度卒含む)

国公立大学名	2019	2018	2017
東京大学	2		2
京都大学	1	2	1
東京工業大学	1	1	2
一橋大学	2	1	3
東京外国語大学	3	3	6
東京医科歯科大学		1	
お茶の水女子大学		1	
千葉大学	2	6	5
横浜国立大学	2	4	2
筑波大学	5	6	2
北海道大学	3	1	1
東北大学	2	1	1

私立大学名	2019	2018	2017
慶應義塾大学	14	17	14
早稲田大学	29	19	31
上智大学	13	16	14
国際基督教大学		2	4
東京理科大学	25	23	19
明治大学	30	27	26
青山学院大学	16	11	6
立教大学	19	17	17
中央大学	24	21	27
法政大学	23	29	13
学習院大学	4	3	3
津田塾大学	3	4	1
日本女子大学	5	4	3



『奈々子に』のプリントに生徒がめいめいイラストを施す。大人にならなければ真価のわからぬ詩の、わが子を思い遣る心を具体的に描き込んでいく

千代田区立九段中等教育学校

するか、自由にイラストで表現させていた。文字を順に追って描く生徒も、「赤い林檎の頬をして眠っている」という出だしに引きずられ、大きなリンゴを描く生徒もいた。いろいろ指導案も多い詩だが、このやり方は稀なようだ。

そして、この「自分を愛する心」がなんとなくわかってくるのは、実は中学生になってからではないかとも思える。鈴木真己教諭は「抽象度の高い表現ですから、今の段階では、絵を描くことで生徒が自分なりに引き寄せてくれればいいくらいに思っています」と語る。その絵はどれも温もりに溢れていた。

練り上げられた政経ディベート

こうして「互いに考える」九段ならではの教育は、6年生政経でのディベートという形に結実する。担当の小美野主幹教諭は帝国書院の教員向け冊子『高等学校 現代社会へのとびら』に実践例の寄稿をするなど、意欲的に授業に取り組んできた。

「夏休みを挿み（取材は7月）、ディベートは年4回。これまでは基本的人権についてまず講義をし、犯罪の実名報道を題材に意見を戦わせたりしました。必ず一人一回は発言するように仕向けます。今回は安楽死。さらに重いテーマです」

生徒らは前の授業で、6月に放映されたNHKスペシャル『彼女は安楽死を選んだ』の録画を見た。昨年11月、スイスで安楽死を遂げた初の日本人女性に密着し、「最期の瞬間まで映した衝撃の内容」と評判になった番組だ。女性は多系統萎



縮症という神経の難病を患い、次第に体の自由を奪われ、言葉も怪しくなり、自殺未遂を計4回繰り返した。そして、女性は完全に寝たきりになる前に、自殺補助を望んだのだ。

ただでさえ、高齢化の日本。まさしくみんなで考えなければいけないテーマだ。ディベートは肯定と否定に分かれるが、それもくじで班メンバーを決め、じゃんけんで勝った順に決める。肯定側の班の女子生徒は最初、「私ならどうかして生きたいかな」と考えたという。

「家族が悲しむと思えば、よけいそう。でも、『それでも生きると言うんですか』と女性は訴えます。導入して選択の余地があればいい、と思うようになりました」

小美野主幹教諭にその発言を伝えると、深く頷いた。英語ディベートによくあるような、ゲーム性達成の目的はここにはない。

「議論を交わす場を設け、リテラシー能力を養うのが目的です。安楽死などは答えがないし、自分の中で考えが完結しがち。だが、グループワークだと他者の意見を目の当たりにできる。形だけ勝敗は決めるが、ディベートは手段に過ぎないんです」

傑出かつ充実のキャリア教育

この小美野主幹教諭が独自のキャリア教育、「九段自立プラン」の担当者でもある。中高一貫校ゆえのタイムスパンと、行政機関や有力企業、大学や大使館等の協力を得やすい千代田区に立地する特性を生かし、かなり理想的なプランニングができています。1年から企業相手にプレゼンができる

技術（左）や美術（右）で手作業に没頭する、2年女子生徒たち。美術は蒔絵製作、技術はヤスリを使っての木材加工。とにかく工具を使って慣れてみよう、との趣旨だった



九段校舎には機材も一通り揃ったトレーニングルームがある。昼休みの間、スワンサー教諭も生徒とともにウェイトトレーニングに余念がなかった

適性検査の傾向と対策

適性検査I・II・IIIを課す。報告書との配点比率は20:80。問題はすべて自校作成で、いずれも45分ずつの時間配分。全体的に難問はなく、正確な計算力や、資料・会話文を踏まえ、適切に分析考察し、的確な記述力が養われているかを問う。Iが国語、IIが算数・社会・理科の大問で構成されるのは都立校と変わらない。しかし、Iは大問2題と多め。また、IIも資料内に新聞記事が引用されるなど、総じて読む量が多い。IIIは大問3、小問9題の構成。大問1はルーローの多角形を題材にした計算、作図および記述。大問2はコウモリが獲物の位置を知るために出す高い音とエコーを題材に、計算と記述問題。大問3は対照実験をテーマにした記述問題。

学校はそうはない。

「いわば新学習指導要領にある、課題発見・探究・解決を具体的にできるチャンス。開校当初から職員が企業訪問し、協力社を開拓してきました。課題は企業側から与えられるはするが、チェックを校内で踏んで、実際に担当者の前でプレゼンをします」

小美野主幹教諭は九段の地の利を強調する。2年では地元商店街が中心。麹町税務署や花屋に行ったりと、協力先も去年までは生徒らが探してきたという。

「進路指導部ないし教務部、あるいは学年個別に取り組んできたのを、包括的に捉える部署が必要と、3年前にキャリア教育部を立ち上げて一本化しました」

大きな流れとして1年では地域、2年で地域・日本・世界、3年でさらに世界、4年からは6年で仕上げる卒業研究に取り組み出す。海外に行くにも、全員参加の3年のオーストラリア研修旅行を皮切りに、4年でUCLA派遣、5年ではやはり必修のシンガポール修学旅行と、私学並みの機会がある。

中で特筆すべきは、日本の伝統文化を外国人に

中等教育学校には珍しく、部活動も盛り沢山



師匠の指導を受け、茶道部のお手前も堂に入ったものだった。黒一点の4年男子生徒は、小学校のクラブ活動でも茶道を体験。中学でも続けたいと、志望動機になったそう

Nコン高校の部予選銀賞という実績も持つ合唱部は少数精鋭ながら、オペラ歌手の高島信吾さんの熱血指導の下、美しいハーモニーを響かせていた



説明できるよう、3年で受ける「江戸っ子塾」。茶道、華道、大道芸、書道、香道、けん玉、将棋、小笠原流礼法、古式泳法、寄席文字、囲碁、篆刻の12講座の中から生徒が自分で選択し、グループに分かれて体験学習する。これもキャリア教育の一環なのだ。

広報担当で総務部主任の内田義明主幹教諭も、「当校は大学ありきではなく、大学の先に何があるのか、そこであなたは何をしたいのかを生徒に徹底的に問います」と、九段独自のスタンスを明瞭に語る。互いの学び合いを大切にすることも、社会は協働で成り立っているという認識からだ。定員の半分80名が千代田区民枠で倍率も2倍で、残る半分（都内であつ同区外）は8倍にも及ぶ狭き門だが、都立一貫校にはない、この個性に賭けてみるのも大いにアリだろう。